

(2)基本姿勢

基本姿勢とは、将来都市像や基本目標の実現に向けて、様々な取組を進めるにあたり、分野を問わず共通して大切にしていこうとする考え方です。

これまでの本市の取組内容や、先に記したまちづくりの課題を踏まえ、「持続可能なまちづくり」を基本姿勢とし、その実現のために大切にすべき手段として「内発的発展によるまちづくり」と「協働・連携による自律的なまちづくり」を位置づけます。

①持続可能なまちづくり

持続可能なまちづくりとは、現在生きる我々世代のニーズを満たしながら、次の世代がよりよい生活を送ることができるよう、豊かな自然や歴史・文化、快適な生活基盤を引き継いでいくことを意味します。この考え方は、2015(平成27)年9月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016(平成28)年から2030(令和12)年までの国際目標です。本市では、全国の自治体に先駆けて、2017(平成29)年4月に「近江八幡市SDGs推進本部」を設置し、各分野における持続可能なまちづくり事業の推進を図っているところであり、今回の総合計画の策定にあたり、その基本姿勢として位置づけるものです。

②持続可能なまちづくりを実現するために大切にすべき手段

1)内発的発展によるまちづくり

持続可能なまちづくりに向けて、地域資源や人材を大切にし、その可能性を引き出しながら、継続的に発展をしていく必要があります。そのためには、市民や市内事業者の思い、**世代を超えた地域のつながりを大切に**したうえで、外部からの資源や人材も柔軟に受け入れながら、時代に合わせた発展を遂げ、豊かな地域を守り育てていきます。

2)協働・連携による自律的なまちづくり

少子高齢・人口減少社会が進展するなか、現在世代も将来世代も、誰一人取り残されずに生活の質を維持向上させていくことは容易ではありません。子どもや高齢者の見守りから生活道路の維持補修まで、地域ごと、個人ごとに大小様々な課題がある中で、行政だけ、市民だけで解決しようとせず、多様な主体との協働・連携を行うことで、本市らしい自律性を保ちながら、持続可能なまちづくりを進めていきます。